

令和元年度 日本大学藤沢小学校 自己評価票

本校の目指す学校像	本校の教育活動の中で、豊かな知識（学力）、あきらめない心（気力）、頑張れる体力を児童に身につけさせ、何事にもくじけることなく、力強く、今後益々複雑化するグローバルな社会で自分の考えをもって歩み続けることが出来る、自主性と創造性を持った心豊かな人間を育てることを目指す。
-----------	--

本校の特長及び課題	<p>学習の中では、土台となる国語、算数、体育に力を入れ、基礎学力、基礎体力の育成を行う。宿泊行事（防災訓練1泊、林間学校2泊3日、スキー3泊4日）の実施や、交通安全教室・防火防犯教室等の講演会により、生活習慣の確立と物事に対するやり抜く気力、児童相互の協力や思いやりの気持ち、自らを守ることへの意識を育てていく。</p> <p>今後の課題は、児童の「学力と体力の向上」、「自他の尊重の意識や他者への思いやりなどの涵養」を踏まえた、小学校としての6年間の教育スタイルを完成させることにある。</p>
-----------	---

令和元年度の取組結果

【概況】	海外研修を除き、授業計画、学校行事、宿泊行事を計画どおり実施することができた。特にICT教育については、4年生と5年生に対しタブレットを用いた授業を実施することにより、授業に対し興味関心を持たせることができ、児童の学習の理解の向上につなげることができた。在校生は5年生までとなり、上級学年が下の学年の児童の面倒を見る取り組みも増え、また委員会活動などにより、学校と児童が協力して取り組むことも増えた。校内だけでなく、校外の宿泊行事や登下校中の交通機関の中でもやさしく声をかけ、面倒を見る姿が見られた。
	学習については、発達段階ごとに視野を広げ、自己探求を深められるように、工夫に努めている。また、学力差が教科によってかなり出てきているため、底上げの工夫も行っている。体力面、気力面については、学校生活、行事を通し、何事にも粘り強く取り組みができる児童に育ってきている。健康面においては、遅刻をする児童や日ごろ休む児童は減少した。

評価項目	取組目標	取組結果・進捗状況	※達成状況
教育活動	基礎学力の育成	<p>教員が授業の始まりに遅れないこと、授業時間の確保に努め、まずは基本的なことをしっかり理解させるように取り組んだ。宿題などで家庭学習できる工夫を行い、自ら学べる意識づくりも行っている。</p> <p>外部実力テスト9月、2月、算数検定と漢字検定を10月に実施した。目標を持たせた上で達成感を感じられるように今後も取り組みたいと考える。学習が遅れ気味の児童には朝始業前、昼と放課後に個別指導を実施している。</p>	A
	気力・体力の育成	<p>学校行事：春の遠足（ハイキングなど）、運動会、持久走記録会を行った。</p> <p>宿泊行事：1年 防災訓練6月（学校1泊）、全学年 林間学校7月（谷川岳2泊3日）、希望者対象スキー教室12月（菅平3泊4日）を実施した。6年での修学旅行（北海道）も計画している。</p> <p>お互いが声を掛け合いながら、やり遂げることができるように取り組んでいる。</p>	A
	授業の改善に向けた取組	<p>管理職が授業を観察している。また、教科主任と担当教員で授業の内容や進度について打ち合わせを行い、振り返りを行っている。教員間で適宜授業を見合えるようにしている。また、保護者に授業公開を各学期に実施している。</p>	A
学校生活への配慮	良い人間関係の確立	<p>児童それぞれが頑張っている取り組みを紹介し、表彰した。</p> <p>また、児童が中心で行う挨拶週間やチクチク言葉・フワフ</p>	B

		<p>ワ言葉について取り組み、お互いが嫌な気持ちを持たない、お互いを尊重する態度を育むよう努めた。</p> <p>SNS などを含め、人間関係について考える研修会を保護者や教職員へも実施した。</p>	
	清潔な環境の整備	校舎内外の清掃を児童と教職員が共に行った。また、清掃業者が毎日清掃業務に入っている。	A
	いじめ防止のための取組	相手を思いやる言葉がけをするように、日ごろから児童に話をしている。また、いじめを早期に発見するためのアンケートも実施し、気になる児童に対して声掛けを行い、嫌がらせが無くなるように対応をした。いじめ防止基本方針を作成しホームページに掲載している。	A
課外活動	異なる学年間の交流	行事を通して上級学年が下級学年の児童の面倒を見ながら、一緒に班で行動する取り組みを行った。スキー教室などの行事においても、荷物の整理や荷物運びを上級生が手伝っていた。また、放課後16時まで教員と児童が共に学習や運動を行い、遊んで学ぶ時間として「遊学タイム」を実施した。	B
	学習のサポート	各教科で理解の遅い児童に対して声掛けを行っている。また、放課後16時まで算数科教室に、学習に関することは何でも相談できるように教員が待機している。 生物資源科学部の学生に、遊学タイム時に児童に算数を教えに来てもらったり、ネイティブが英語を教えたりしている。	A
進路指導	将来への夢を形成する	日本大学藤沢中学校への進路希望調査を行い、児童の進路についてご家庭で考えてもらった。日本大学藤沢中学校には、進学説明会の企画を依頼している。 生物資源科学部や外部講師による特別授業を土曜日に実施し、様々な職業について興味づけを行った。	A
	日本大学への進学者数増加に向けた取組	生物資源科学部の施設を利用し、農場実習を行っている。また、学部の教員による特別授業を実施し、違った目線で教科に興味を持つように働きかけ、日本大学の魅力を伝え、帰属意識を高めた。	B
保健衛生	健康な生活	「ほけんだより」を定期的、また臨時に保護者に配布し、適宜必要な情報や注意喚起を行っている。健康診断や眼科検診4月、内科検診を5月に行った。持久走などの行事の前には、さらに健診を行っている。 月1度、安全衛生委員会を開き、情報交換を行っている。	A
	安全の確保	AED教員研修を実施し、緊急時に備えている。昼休みや放課後の児童が校舎外に出る時間帯には、教員が常に見守るように努めた。校舎内では出合頭の事故が起きないように、日ごろから走らないように声掛けを行っている。	B
図書	読書量の増加	中高や市の図書館から調べ学習用の図書を借りられるようにした。1、2年の国語の授業を週1時間、図書館で読書の時間として実施した。また、定期的に「図書便り」を配布し、読書に対しての意識づくりを行った。長期休暇に入る前に、推薦図書を児童に案内した。さらに、最大5冊まで借りられるようにした。読書記録を用意し、自身の成長も感じられるようにした。	A

広 報	募集活動	説明会や教育懇談会を実施し、本校の魅力を伝えるよう努めた。	A
	広報活動	ホームページや学校案内などで本校の良さや様子を分かりやすく掲載した。新しくリーフレット(小冊子)を作成し、説明会などで配布した。幼児教室主催の説明会に参加し、学校の方針や魅力について説明した。	A
管理運営	定期的な会議の実施	教務部会、生活指導部会、広報部会、児童会、教職員会議を定期的実施した。 情報の共有に努めるとともに、共通認識で何事にも取り組めるように努めた。	A

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

令和2年度の取組目標及び方策

評価項目	具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
教育活動	基礎学力の育成	新学習指導要領改訂に伴い、学則改定を行い、各教科の授業時間を確保する。 外部実力テスト、算数検定、漢字検定、英語検定を実施し、目標設定をして意欲的に学習が出来るようにする。 学習が遅れ気味の児童には、個別指導や遊学タイム(勉強の取り組み)に参加を促し、遅れが広がらないようにしている。	定期考査実施(年5回) 実力テスト9月と2月 四谷大塚模擬テスト4月と9月 算数検定・漢字検定10月 英語検定1月
	気力・体力の育成	宿泊行事:1年防災訓練(学校1泊)、 全学年林間学校(谷川岳2泊3日)、スキー教室(菅平3泊4日)を実施し、集団生活における協調性や相手を思いやる気持ちの育成、体力増進を図る。 持久力を測る行事を行い、諦めない気持ちも育成する。	運動会 5月 1年防災訓練 6月 林間学校 7月 スキー教室 12月 持久走など 1月
	授業の改善に向けた取組	授業公開を各学期に設定する。 また、教員が相互に授業を見る。 適宜、管理職が授業を見て、教員と授業について意見交換を行う。 さらに、外部の研修会に参加を促し、教員各自のスキルアップができるようする。	授業公開 6月, 11月, 2月
学校生活への配慮	良い人間関係の確立	言葉について考えることについては、引き続き取り組む。色々な行事で発表や表彰するなど、個々の児童が活躍できる場面を作ることを心がける。 また、情報モラル教育を実施する。	あいさつ週間(年3回) 情報モラル教室8月 ことばについて考える5月 命の大切さについての講演会
	清潔な環境の整備	児童の机の中、ロッカーの中などを適宜整理する。校舎内外の清掃を児童と教職員がともに行う。中庭や校庭の草むしりも協力して適宜行う。	清掃については、毎日。

	いじめ防止のための取組	いじめを早期に発見するためにも、『気になること・いやなことはありませんか』のアンケートを引き続き行う。また、いじめ防止の教員研修を実施する。	いじめ防止アンケート(2回) 教員研修4月・8月
課外活動	異なる学年間の交流	児童会を中心に運動会や林間学校、スキー教室などの行事で、児童間の交流ができるように企画をする。 委員会活動を通して、全校での取り組み内容などを、上級生が下級生に連絡を行う。クラブ活動においても異学年での交流を図る。 放課後に教員と児童が共に学習や運動を行う時間として「遊学タイム」の実施を継続していく。	5月 運動会 7月 林間学校 11月 文化祭 12月 スキー 2月 持久走記録会
	学習をサポート	放課後、学習に関して質問できるように担当者を配置する。また、生物資源科学部生による勉強サポートも継続していく。	
進路指導	将来の夢の形成	博物館見学など、大学の施設も含め色々なところの見学を通し、将来について少しずつ考えてもらう。また、特別授業を各学年で実施し、児童に興味の幅を広げてもらう。	
	日本大学への進学者数増加に向けた取組	中学の行事に参加したり、授業に参加して、中学生がどのような生活、勉強を行っているかを感じ取る。 生物資源科学部の教員による特別授業を実施する。また、日本大学藤沢中学校の進路説明会を実施する。	
保健衛生	健康な生活を促す	健康診断、眼科検診、内科検診の実施、「ほけんだより」を定期的に発行する。	4月、5月、6月、1月
図書	読書量を増やす	1,2年国語授業を週1時間、図書室で実施。本の魅力が伝わるように「図書だより」などを適宜発行する。 調べ学習を行う時は、本校の書籍だけでなく、色々な機関から資料を集められるようにする。	
広報	募集活動	学校説明会、授業見学会、教育懇談会、個別相談会を実施する。説明会で模擬授業なども実施する。	5月、6月、7月、8月、9月
	広報活動	幼児教室の訪問をはじめ、幼児教室担当者対象説明会を開催し、本校に対する理解を促進させる。アフタースクールについて、令和3年度4月運用開始に向けて、情報を収集する。 ホームページは本校の良さや様子を分	

		かりやすく理解できるように改修する。 また、説明会などでは、動画を用いて、本校の魅力を分かりやすく伝える。	
管理運営 (分掌・会議・ 委員会, 財政, 施設・設備等)	定期的な会議実施	教職員会議, 教務部会, 生活指導部会, 広報部会, 児童会など分掌や委員会の会 議を定期的実施する。	月 1 回
	多目的教室, 3 階教室, 体育館, 校庭・グラン ドの整備	多目的教室はアフタースクールで利用 できるように整備する。 マルチメディアシステムの設置や, 机・ いすなど学習環境の整備を行う。 また, グランドなどの学校生活環境を整 備する。体育館の Wi-Fi や暖房設備に ついても, 整備する。	

中長期的目標及び方策

評価項目	具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
教育活動	基礎学力の育成	外部実力テストの実施 (育伸社, 四谷大塚など) 算数検定, 漢字検定 I C Tを活用した授業の実施	
	英語力の向上	オールイングリッシュ授業の実施 海外語学研修, 英語検定, 国内語学研修 の実施。	英語検定: 1 月 国内語学研修: 8 月
管理運営	施設設備の整備	3 階教室マルチメディアシステムの設置 コンピュータ室のスクリーンプロジェク ターなど。	